

月刊

リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

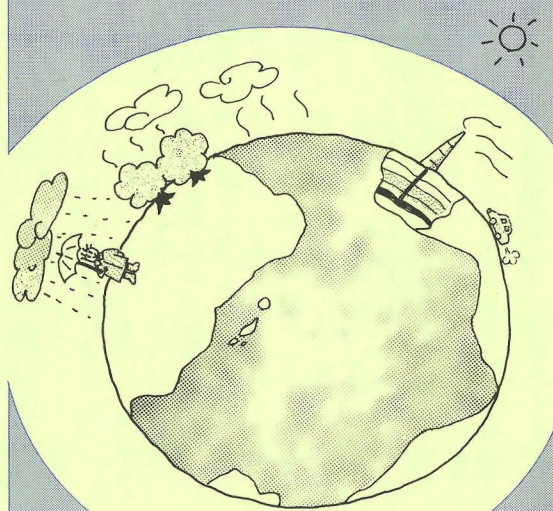
リサイクルデザインは、横浜市
内の資源回収業者の組合(135
業者が加盟)による、市民と組合
員にリサイクルの情報・回収の
実情を伝えるための情報誌です



地球ができてから45億年経ちま
す。45億年のうちのほとんどの時
間を使って、地球は私たちが住み
やすいような環境を整えてきまし
た。

例えば酸素。45億年前、地球の大
気の中には酸素がなく、そのほと
んどは二酸化炭素でした。地球は
ゆっくりと、炭酸ガスをさまざま
な形で地球の内部に閉じ込めてき
ました。その代表的なものが、植
物が炭素になって化石化した石炭
であり、古代の生物の死骸からで
きたと言われている石油です。こ
うした活動の結果、大気中の酸素
濃度が高くなったのです。

地球をめぐる環境



45億年前にはオゾン層もありま
せんでした。オゾン層が形成され
たのは今から1億年前、それまで
動物は紫外線の強い陸上に住むこ
とができませんでした。水の中は
紫外線が入り込まないので、動物
は水の中で生活していたのです。

このように地球は長い年月をか
けて、動物が住みやすい環境をつ
くり上げてきました。ところが人
間は、わずか数十年の間にこの環
境を破壊しつつあります。

フロンガスを排出してオゾン層
を破壊しています。エネルギーを
得るために石炭や石油などの化石
燃料を燃やして、二酸化炭素を再

び大気に放出しています。二酸化
炭素を取り込んで光合成を行い酸
素を作り出している木々が次々と
伐採されているために、二酸化炭
素の量が増大しています。木々は
また、水分をたくわえる働きもし
ています。森林の伐採が進めば、
木々から蒸発する水分がなくなる
ため、雲ができ雨が降ることもな
くなってしまいます。その結果、
砂漠化が急激に進んでいきます。

地球上の水の量は一定です。雨が
降らないところができれば、雨に
なるはずだった水は、別の場所
で洪水や大雪などの異常気象とな
ってあらわれることになります。

大きな地球上のいろいろな現象
は、見えないところでつながって
いるのです。そしていま人間が営
んでいる生活は地球の許容限度を
越えつつあり、その壮大なつなが
りをあちらこちらで断ち切ってい
るように感じられてなりません。

ゴミ問題も含めた環境問題を少
しでも解決していくためには、毎
日の小さな積み重ねが一番大切で
す。でも時には、毎日の小さな行
動が地球や宇宙にまでつながって
いることに思いをめぐらします。そ
ういう時間を持つことが、環境問題
への意識をさらに高める力となる
のではないのでしょうか。(さくら)

あれも知りたい これも気になる 古紙のリサイクル



事業局減量推進担当部長 井町忠さん(横浜
市・東海パルプ株式会社特殊用紙部部
長 河合晃)さん(製紙メーカー)です。
(Qは質問、▼が回答です)

●市(行政)への質問

1. 行政の古紙利用とリサイクル

Q 公的機関でリサイクルを進めると同時に、公的機関での古紙使用をもっと指導すべき。

Q 市でも紙を使うことが多いだろうから、大いに再生紙を使ってほしい。

Q 学校では紙を多量に使用しているが、リサイクルされずにほとんど捨てられている。何とかできないだろうか。

Q 行政は将来を考え、本腰を入れて古紙問題に取り組んでほしい。

Q 行政(国全体)として、古紙100%製品の利用のみを考えていく時代だと思う。パルプ100%のものは限定製品のみにするというようにしてほしい。

▼市では、「横浜市内ゴミ減量化・資源化推進本部」を設置し、市内で使用する紙製品について、例えば、コピー用紙については混入率100%・白色度70程度、トイレットペーパーは混入率100%、封筒は50%といった古紙混入率等の基準を定め、積極的に再生品の利用に取り組んでいます。

2. 回収システムについて

Q 井町さんのお話の中に「横浜市の古紙回収システム」ということが出てきたが、市としての古紙回収システムは現在ないはず。システムをしっかりと

政策に取り入れてほしい。また、市内の学校及び公的機関で出る古紙についても、オフィス町内会のような回収システムを作るべきだと思う。

Q 雑誌の集団回収奨励金が、キロ3円から差引1円以下にならないようにお願いしたい。

Q 月1〜2回でいいから、ゴミ収集のルートで新聞・雑誌等古紙の回収をしてほしい。

▼古紙を取り巻く現状は、古紙余剰を背景とした市況の暴落など、大変厳しい状況にありますが、リサイクルの輪がとぎれないよう、引き続き資源集団回収を維持・継続していきたいと考えています。

また、事業所の古紙回収については、古紙余剰の中でさまざまな課題はありますが、資源循環型社会の構築に向けて積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

3. 回収業者との連携について

Q 古紙(マンガ等)を集めても、引き取る業者がないことがある。消費者と業者と行政がスクラムを組むべき。

Q 雑誌などがダブついている、回収業者がピンチと言われるが、保管する場所への補助を出して、資源を大切にすることを考えて、また、企業の味方をするだけでなく、住民への指導もしてほしい。

Q ゴミ減量と言われる昨今だが、紙類が逆有償ということになると、つい捨ててしまふ。消費者・業者・行政が組むシステムを作ってほしい。

▼現在の古紙問題は古紙の需給バランスが崩れたことが要因ですので、古紙再生品の利用促進等「出口」対策を含めて回収方法についても研究してまいります。

4. 広報について

①教育

Q 子どもの頃からの資源教育が大切。子どもから親が教わることもある。学校で伝えるようにしてはどうだろうか。

Q 若い世代にもっと古紙やリサイクルについて伝えてほしい。

▼現在、小学校4年生のカリキュラムのひとつとして、環境教育がとり上げられています。環境事業局では、その資料として冊子を作成しているほか、焼却工場の見学などを実施し、啓発に努めており、今後ともその充実に努めてまいります。

②消費者に対して

Q 行政が「トイレットペーパー等は必ず古紙を混入すること」と指導すれば、消費者は自然に古紙混入したものを使うようになり、バージンパルプでなくてもよいということがわかっていくと思う。

Q 市民にもう少し再生紙を利用するようPRしてほしい。

Q 市民の意識向上にもっと力を入れ、そのためのシステム作りにも援助を。

▼市民や事業者に対する広報については、本年度、新たに総合広報紙「はまごみフォーラム」を発行し、リサイクルを重点とした啓発に取り組んでいます。また各種のイベントや古紙リサイクルに関する「連続講座」を開催し、古紙再生品の積極的な利用について幅広くPRをお

これまで数回にわたって昨年行ったりサイクルデザインフォーラムの内容及び講演についてお伝えしてきました。今回は参加者によるアンケートについてご報告します。

フォーラムの参加者は160名、アンケートの回収率は31.9%でした。アンケートでは、古紙問題について市(行政・製紙メーカー・回収業者それぞれに対する意見をいただきましたが、中でも市(行政)と製紙メーカーへの質問が多く寄せられましたので、今回は直接お答えいただくことにしました。

回答していただいたのは、横浜市環境

こなっています。

③事業所に対して

Q 古紙を使っている事業所に、行政から資金を援助してほしい。

Q 市民の古紙リサイクル意識は高く、回収システムも軌道に乗ってきていると思う。行政は紙を大量に使う企業に対して、もっと古紙を使うよう指導すべき。

▼本年度、事業所を対象とした「古紙再生品リスト」を作成いたしました。今後大規模事業所を中心に配布し、古紙再生品の利用を推進してまいります。

④メーカーに対して

Q 古紙再利用について、製紙メーカーに対する積極的な指導を要望する。

Q 純パルプの紙やきれいな箱の製造量を段階的に制限し、古紙の利用をふやしてほしい。

▼メーカーについては、他都市とも連携して古紙利用率の向上について働きかけしておりますが、消費の動向もありますので、今後ともさまざまな機会をとらえて古紙再生品の利用促進についてPRしてまいります。

4. その他

Q 事業ゴミ利益が多大なのに驚いた。

Q 井町さんの最後の発言にあった古紙についての取り組みに期待します。

Q 良識をもって取り組む姿勢に好感が持てた。市職員のコピー用紙等に再生紙を使っているそうだが、教科書にも全面的に使用しても差し障りないのでは。

Q 教科書に再生紙を使っているのか。▼教科書については、これまで本文には

使われていませんでしたが、文部省としては、今後本文への使用を進めていく方向にあると聞いております。

●製紙メーカーへの質問

1. 価格について

Q これからも再生紙を安く販売できるよう努力してほしい。

Q 再生紙をもっと安くしてほしい。末端では上質紙より高くて使いにくい。

Q 再生紙の流通の促進に取り組んでほしい。記念誌を作る時、印刷所に再生紙で注文したら、A4サイズ1枚1円のコストアップになった。理由は、在庫がなく流通システムにのっていないから特注となるからとのことだった。

Q バージンパルプ製品の価格を高めにしてはどうか。

Q トイレレットペーパーは全部の製紙メーカーが再生紙で作るようにしたいと思う。地球の将来のためになるなら、価格が少々高くなっても納得できる。今日見本にももらった用紙（東海パルプの再生紙）で日常使うのは十分。価格の安い製品をどんどん作ってほしい。

▼再生紙と言っても、何時までも高くは市場に定着しないことは明らかです。現在はまだまだ流通量が少なく、従って流通での在庫等もきわめて少ない状況です。その理由は以下の通り。

①流通では二重在庫を嫌って、積極的な販売スタンスをとっていない。
②メーカーも二重の生産体制を持つことに消極的で、これも積極攪拌にまで進めない（バージン品と再生品）。

③東海パルプの場合は、上質紙を生産しておらず、始めから古紙を原料として上質並の製品を作るべく設備投資を行った。ただし、マーケットはゼロからのスタートだったため、世論を喚起してマーケットを作ってきた。従ってバージン品と再生品の綱引きは今後も続く。結論は世論・消費者次第。とにかく裾野を広げることが大事。

以上のような理由から、今しばらくは入手の不便と高い価格が市場に存在します。当社の汎用品（コピー紙・フォーム用紙・中質印刷用紙）は既にバージン品より低価格を実現しました。しかし未だ当社以外のメーカーの再生紙への本格参入はありません。複数のメーカーが本格参入すれば加速度的に改善が進みます。

2. 質について

Q トイレレットペーパーは、別に白くなくてもいいと思う。

Q 消費者は必ずしも白色度は求めているので、古紙混入率を上げる企業努力をしてほしい。

Q トイレレットペーパーは古紙100%の製品しか作らないようにすればいい。パルプ100%のものは、アレルギーの人とか病んでしまうというように人にしか売らないというように、国全体で取り組む方法を考えてほしい。

▼適度な白色度は、東海パルプのスタート時から持論です。ご指摘に全く異議はありません。ただし現実のマーケットでは、こたわりはまだまだ強い状況です。トイレレットロールの選択についても同

じ。混入率アップについても異議ありません。今は再生紙を拡大させる時期なので、100%に向かって多くの人の努力がなされれば良いと思います。100%だけに固執すると、供給は極めて少量になって、事実上再生紙の否定につながります。

3. その他

Q ある製紙工場を見学したとき、新聞・雑誌、何でも同時に使用して分ける必要はないとのことだった。分別をしなくてよければ、今のように雑誌類を逆有償にするという問題はなくなってしまうと思う。

▼古紙の分別は有効利用を進める上での基本原則。ただしどのアイテムで分けるかももっと検討すべきでしょう。

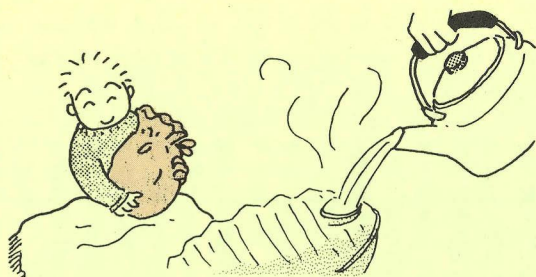
例1：雑誌は現状雑古紙となっており、何でもOKのミックス古紙です。これでは使用に不便をきたします。

例2：新聞とチラシを必ず分ける必要性はどうでしょうか。この場合20〜30%の安定比率であれば使用は十分可能です。

Q 排水など環境への配慮に取り組んでいます。

▼古紙再利用は製紙工場として十分な環境保全のもとで行っています。さらにゴミ化する廃棄物削減にも貢献しています（古紙中に相当量のプラスチック・鉄屑等が入っており、この処分も深刻です）。

今年もフォーラムを開催する予定です。今回に増して多くの方に参加していただき、たくさんの方の意見を聞かせていただくことを楽しみにしています。



おすすめグッズ ～ 汚染の時代～

灯油ストーブと湯たんぽ

ササキ ミチコ

冷え込んでいます。暖をとるのに、あなたは何を使っていますか。温暖化防止策がとりわけ先進諸国に要求される中、各自の省エネをと再びかけ声は聞こえてくるものの、反応はいまひとつ鈍いようです。厚い防寒コートなど着てかけると、バス・電車に乗って汗をかき、役所やホール・デパート、どこも中にいる人が働きやすいように、薄着ですむくらいのしっかり暖房なので、脱いだり着たりが忙しい。日本は本気で温暖化への恐れと責務を感じているようにはとても思えません。削減スケジュールを先延ばしする「先業後憂」型はCO₂に限りませんが。

さてCO₂削減型暖房という又何があるでしょうね。若い友人は「集合住宅の方がはるかに省エネ型生活ができるわよ」といいます。一軒家に住む友人の暖房はこたつのみ。光熱費はすべて月5000円を越えないよう心がけているそうです。横浜の冬はお天気恵まれていますから、窓際には葉を落とすキウイの柵を作り、暖かい日差しを取り込んでいます。

私は長年小さな灯油ストーブを使い続けています。化石燃料です

から、当然CO₂もSO_xもいろいろ出ますが、電気を使う温風吹き出し型ではない昔からの反射式で、煮炊きができます。お湯はすぐに沸きますし、豆やおでんをコトコト煮ながら、そばで読み書きをするのはいいもので気持ちも体も温まります。直火ですから幼児・老人には危険が伴うことがあり用心は必要ですけれど、災害時の備えにも灯油のみの電気なしストーブはおすすめです。

福岡に転居し初めて迎えた冬が予想以上に寒くて、寝る時温めるものがほしくなりました。そこで見つけたのが湯たんぽです。ブリキ製でコールド天の袋に入って約千円。プラスチック製だと半額くらいでした。ストーブの上で沸いたお湯を注ぎ、寝る前にふとんに入れておくと、やわらかな暖かみがなんともいえません。厳寒期には2個に増やし、足元にひとつ、おなかや背中あたりにもうひとつおきました。これがまた気持ちいいのです。老人によく電気毛布を使いますが体の水分をうばうので、それだけでなく乾燥しがちな皮膚がさらにカサカサしてかゆくなったりします。幼児や老人には特に

湯たんぽはおすすめです。ただしキルティング布やバスタオルでしっかりくるむなどして気をつけてください。熟睡していると体が動きませんから、じっとしたまま長時間ふれていて低温火傷をおこすことがあります。

そして湯たんぽのお湯は、朝の洗面、食器洗い、粉石けん溶かしにちょうどいいのですよ。ブリキ製湯たんぽの中のお湯は、初めのうちはメッキがはがれてキラキラが浮いて臭いがしましたが、何度か使ううちなくなりました。昼は湯たんぽを床に置いて足温器にし、座り仕事にはプラスひざかけを。くらしに少し以前の習慣を取り戻すだけで、ゆるやかではありますがCO₂削減につながっていくはずです。まずは自分の足元から。職場や出先の暖房過多にも発言していきたいですね。

ササキミチコ／一昨年から昨年にかけリサイクルデザインに「エコサイクル12か月」を連載。「おすすめグッズ」は隔月掲載しています。現在九州在住

●コピー用紙 (新聞古紙90%の再生紙)

平成9年12月現在

サイズ	入数	規格	1・2ケース	3・4ケース	5～9ケース
A4	2500枚	白 (白色度70%)	2,080円	1,980円	1,910円
		ピンク・イエロー・グリーン	3,660円	3,480円	3,120円
B4	2500枚	白 (白色度70%)	3,180円	3,160円	2,780円
		ピンク・イエロー・グリーン サーモン・パープル・ブルー	5,000円	4,800円	4,680円
B5	5000枚	白 (白色度70%)	3,180円	3,140円	2,760円
A3	1500枚	白 (白色度70%)	2,570円	2,540円	2,230円

●コンピュータ用紙 (β-ONハイパーフォーム 15-11/新聞古紙83%)

入数	規格	5～9ケース
2000枚	白 (白色度60%)	2,900円

*この他の再生紙については、右記までお問い合わせください。

ご注文は

横浜市資源リサイクル事業協同組合

TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

嬉しいこともありまし
た。あちこちで『エコサイ
クル家事』のお話をさせて
いただいた後は、よく「目
からウロコでした」という
ご感想を頂くことができました。
そう、巷にあふれて
いるコマーシャルや情報に
惑わされずに、地球に優し
く、捨てずに生かす暮らし
は、ほんの少しの工夫でか
なり可能なのです。

エコサイクル（人間も含
めた地球の生態系に優しく
の意）な家事のアイデア
とコツを広めて数年が
経ちましたが、昨年は二つ
の悲しい情報を聞きました。
一つは古紙相場の暴落。
もう一つは『環境ホルモン』
という言葉の登場でした。
アメリカの女性科学者シー
ア・コルボーン氏は、著書
『奪われし未来』（翔泳社）
の中で、多くの化学物質が
生態系に与える影響は幾世
代にも亘り、これまで私達
の認識していたものより遥
かに深刻なものだというこ
とを、この言葉によって詳
しく説明されたのです。

さらに嬉しかったこと
は、中学校の先生方が主催
された研修会にお呼びいた
だいたことです。重傷の地
球を再生の方向に向かわせ
るには、各家庭での暮らし
方が鍵を握っていると言
え、子どもたちへの教育が

地球をまもる家事と工作

第22回 重傷の地球 少しでもよい方向に

島 秀子
エコサイクル家事研究家



▼先生方からいただいた御
感想を紹介します。

●環境教育というところまで
は、環境汚染の現状や原因
の分析等と、とかく知識の
伝達や行政の対応を批判し
たり期待するものが多かつ

だけでなく、家庭内という
ごく近い足元の生活の中で
実行できるものばかりでし
た。まさに私が願っていた
内容と一致しました。自ら
の生活を見直す良い機械に
なったと思います。

●短い時間でしたが、自分
ができることは何か改めて
考える機会でした。

古くなったもの、こわれ
たものを修理するのではな
く、自ら手を加え、新しい
物、好みの物に変身させる
喜びを先生から伺うことが
できました。

とても大切なことは言うま
でもないのですから。
この一年が、地球と人間
を含む生き物たちにとっ
て、少しでもよい方向に向
かう年となりますように、
皆で力を合わせましょう。

しかし、今回の研修内容
は、具体的な行動の方法が
明確に示されており、学校
教育の中での生徒への指導

●短時間でほんのさわりと
いうことでしたが、実際に
お話を聞くと、「目からウロ
コ」という感じでした。家
庭もちろんですが、学校
という中で手軽にできる実
験、リサイクルの実例をた
くさん知りたいと思いま
す。生徒たちと一緒にやれ
るものがあればと考えてい
ます。

この他にも前向きなご感想を
たくさんいただくことがで
きました。

再生紙を使ってみませんか！

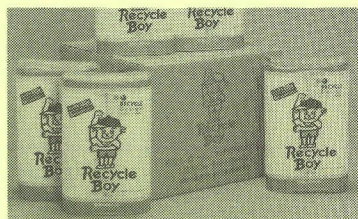
私たちの資源回収から生まれた再生紙です

地球環境を保護することにこだわり、環境汚染をなくすよう配慮して作りました。
再生紙を使うことは、省エネルギー・ゴミ減量・森林保護を支え、しかも経済的。
私たちの願いは、地球の未来のために住みやすい環境を作ることです。

●リサイクルボーイ トイレットペーパー

さわったお尻は忘れない

サイズ	1ケースの入数	規格	10ケース以下	11ケース以上
シングル(芯なし)	(1ケース8パック/1パック6ロール) 48個	130m	1ケース3,360円	1ケース3,000円



*上記価格は、1回のご注文につき1ケースあたり(各種・各サイズ込み)の価格です。消費税が別途かかります。
*配送は、受注後2~3日以内(土・日は除く)。送料は無料です。10ケース以上のご注文については、別途ご相談ください。

地球にやさしい家事のコツ

島 秀子 著

大和書房 1,500 円



モノを捨てるのはもったいないと思ってはいるけれど、なかなかリサイクルできない。リユースしたいけれど、なかなかアイデアが出てこない。そう思っている人はたくさんいらっしゃることでしょ。そこで今回おすすめする本は、本誌の『地球をまもる家事と工作』でおなじみの島秀子さんが書いた『地球にやさしい家事のコツ』です。

地球にやさしく暮らしたいという著者（島さん）の気持ちがたくさん詰まっているこの本は、リフレッシュ篇・リニュー篇・リモデル篇・リフォーム篇と四章に分けて書かれています。

本誌でもすでに書かれているものもありますが、ほとんど初めて目にするアイデアばかり。改めてアイデアの豊富なことに感心させられます。またそのどれもが、誰にでもできる簡単なものばかり。

主婦の目から見た視点・アイデアで書かれているものばかりですが、その中でも「こんなものまでリモデルして使うんだ」と驚いたのが、ストロー。ストローをスノコの幅になる様に何本かとおき、それをタコ糸でつないでいくだけで、豆腐の水切りスノコができあがったり、リボンを使って「S字フック」をおしゃれにリフレッシュする。牛乳パックで、ベッドの幅を広くする。イチゴのパックをすてきな室内鉢にする。禁忌品（回収に出せないもの）のビニール窓のある封筒をひと工夫してもう一度封筒として使うなど、約100点のアイデアが紹介されています。

また文章を読んだだけではちょっと、という人にもわかりやすくかわいらしいイラストが説明と一緒に書かれていますので、誰にでも簡単にできることでしょ。

私もこの本を読み終えて、「何か一つ作ってみようかな」という気持ちが湧いてきました。（Donald）

▼リサイクルデザイン読者の方、及び学校関係で、5冊以上まとめてご購入頂く場合には、著者割引制度（2割引）があります（ただし送料がかかります）。詳しくは大和書房営業部（03・3203・4511）へお電話のうえ、必ず「著者紹介で購入したい」旨をお伝えください。

『パームやし』の名前は知らなくても、気づかないうちにパームやしの実から作った食用のパーム油や石けんを使っているはずですよ。パームやしは植物性油脂というイメージのよさからでしょうか、健康や環境への関心の高まりとともに、ここ数年輸入量を伸ばしています。1996年には輸入量が約36万トンとなり、輸入植物油の%近くを占めるまでになりました。

パーム油の八割以上はお菓子やインスタントラーメンなどの食用に使われていますが、石けんや合成洗剤への使用も増えています。ただ、今のところ何となく健康や環境に

いようなイメージが先行して広まっているものの、実際に安全性が証明されているわけはありません。パームやしの栽培は、熱帯雨林を伐採して作ったプランテーションで行われています。今年インドネシアで起きた大規模な森林火災の原因の一つは、パームやし栽培のためのプランテーションを作るために、伐採・開発する行程で森林に放った火だったとか。

日本や欧州でのパームやしの需要が森林火災の遠因と聞くと、食卓は世界に繋がっていることを気づかされ、慎重に行動しなくてはいけないことを改めて感じます。

36万トン

この数字
なんだ？



循環型社会の形成を目指して

横浜市資源リサイクル事業協同組合 理事長 中野 聰 恭

新年明けましておめでとう
ございます。

回収業界にとって、九七年は古紙が集まり過ぎて、「困った、困った」で明け暮れ、カラスの鳴かない日はあっても、古紙の余剰問題がマスコミにとり上げられない日はない、といわれた一年でした。

地球環境問題・ゴミ問題解決のため、リサイクル型社会の到来や持続可能な循環型社会の形成をと言われて久しいのですが、リサイクル業界を取

り巻く経済環境は、一向に改善されません。それどころか、かえって悪い方向に向かっているようです。現状のゴミ問題解決方法は、持続可能な循環型社会の形成からかえって遠ざかっていくように感じられます。こうした年々遠ざかっていくという実感は、古紙の回収をすればするほどトリレンマに陥ってしまう古紙の余剰化問題で、市民の方々も体験されていることで

しょう。事業者にとってはゴミ処理費用の有料化、市民にとっては分別排出、自治体にとっては収集コストの増大、そして回収業者の転廃業を招くような四方四角損の状態では、誰の、何のための問題解決か、問い直さなければなりません。

確かに高度経済成長政策の大量生産・大量消費・大量廃棄によって、今日の豊かさを手に入れることができたのは事実です。そのための推進制

度・法律などがうまくできたからこそ、奇跡的な経済復興を短期間のうちに成し遂げることができたと理解しています。しかし、持続的な拡大経済政策が、資源問題・環境問題・エネルギー問題などで不可能になったからこそ、持続可能な循環型経済政策の導入が不可欠なのではないでしょうか。今度はそのために法律・社会制度を整えていくことが必要なのです。

明るいニュースもありました。昨年の暮れに、本誌、月刊「リサイクルデザイン」が、第十三回「NITT全国タウン誌フェスティバル」で全国七十七誌もの多くの応募の中から、栄えある特別賞をいただくことができました。これもひとえにご愛読いただいたおります皆様のご指導の賜物と、御礼申し上げます。とかくマイナーなイメージのある再生資源業界が、試行錯誤で始めた情報発信と市民との交

流を目指した情報誌。見開き四ページ三千部の発行より出版し、現在八ページ一万一千部までになりました。これからも初心を忘れず、誌面の充実と皆様に役立つリサイクル情報が提供できるように努力を致しますので、本年もよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、九八年が皆様方にとりましてすばらしい年となりますよう、ご祈念申し上げます。

*トリレンマ 三者択一を迫られてどれにすることもできず悩むこと



編集後記・新春スペシャル

正月にこたつに入ってテレビを見ながら、「こういう生活が地球を破壊しているんだなあ」と、みんなが少しずつ思うようになれば、我々の未来も明るいんですけど……。
(エアバック)

◆京都で開催された「地球温暖化防止会議」。結果はどうであれ、このような会議を開催せざるを得ない現状をどう分析したらいいのでしょうか。ハイテク産業と風俗産業が急成長する昨今、心の豊かさが遅れるわが国では、如何ともし難いところか……。頑張りましょう。
(イニッシュモア)

★また新しい年が始まりました。毎年、「今年のリサイクル元年になる」と思っているのですが、今年こそ本当にそうなると思います。

ISO（環境に与える負荷を最小限にするための方針・目標を定めた国際的なガイドライン）の取得軒数も増えてきました。私たちの仕事は細かい打ち合わせを必要とするようになり、回収にうかがうと、「必ず再生して下さい」と言われるようになりました。

リサイクル元年が本格的に訪れました。
(のり)

リサイクル 標準価格表

平成9年12月現在

品名	買入価格*	業者の売値 12/18日経新聞より
新聞	1kg - 1~0円**	1kg 3~4円
雑誌	1kg - 5~2円**	1kg 0~5円
段ボール	1kg - 3円**	1kg 3~4円
衣類くず	1kg - 1~0円**	1kg 4~5円
アルミ缶	1kg 10~20円***	

*集団回収には「買入価格」が適用されます

**有償となります

***スチール缶などと選別してある場合の価格です

★この価格は500kg以上集団回収する団体のみに適用されます
また取引条件により、多少の変化があります★事業所から発生したものは、集団回収の対象になりません
事業所ごとに、業者と直接ご相談ください★集団回収以外の段ボールの回収には、1回3,000円以上の
手数料がかかります

★段ボールは必ず束ねて出してください

オフィス古紙
共同回収

'97.11

参加企業11社

11,170kg

回収地域は横浜駅西口・
新横浜の2か所アルミ缶
店頭回収

'97.11

市内スーパー等
102店舗

38,270kg

(2,614,000缶)

横浜橋通商店街
ダンボール回収

'97.11

11,480kg

生活用水の使用量が増え続けています。家庭で1日に使用する量は、一人約245リットル。灯油ポリタンクで12個分です（ここに含まれているのは、家庭での使用分だけ。会社や学校、公共施設などで使われる分は含まれていません）。

都会では地表の大部分が建物やアスファルトの道路で覆われているため、雨が降っても地表にしみこみにくなっています。そこに大雨が降ると、地表が吸収しきれない雨水が、一気に川や下水道に流れ込むため、水があふれるというような被害も出やすくなっています。

雨水にはほこりや小さなゴミが混じっているため、飲み水として使うことはできませんが、庭に散水したりトイレの水として使うことはできます。ここに着目して、最近では雨水を貯めて利用する設備のある建物が作られるようになってきました。

例えば東京ドーム。野球の試合がある日には、400立方メートルの水が必要なので、地下にミニ下水処理場をつくり、雨水や一度使った水を処理して、トイレなどに使っています。墨田区では、両国国技館・江戸東京博物館・区役所などに雨水を貯める貯水槽を設置、トイレや冷房に利用しています。

雨水を貯めて使う。原始的な方法のように感じるかもしれませんが、浄水のためのエネルギーや消毒薬を節約できる、非常に有効なリサイクルの方法と言えるのではないのでしょうか。

リサイクル
コンポイント講座

◆NTTタウン誌大賞表彰式のこと。某女性審査員、リサイクルデザインをつまんで、「リサイクルデザインって、他のタウン誌と違ってこのべらべらがいいのよね〜」（ちょっとオーバーに言ってみました）。

今年こそ張り切って原稿を書くつもりだったけど、やっぱりマイペースで行きましよう。（ポン太）

♥去年のラスト2か月は、マイペースで走り抜けたので、「あつ」という間に年を越してしまいました。今年こそはマイペースで行きたいな。（ドナルド）

♣もちろんドカンと大がかりにはじめられればいいのだけれど、まずは自分のできる小さなことから始めることが、ゴミ問題の基本形。

♣もうろんどカンと大がかりにはじめられればいいのだけ

(RETURN)

月刊 リサイクルデザイン
No.41 (Vol.5)

発行日 1998年1月15日

発行人 中野聡恭

編集人 宗村隆寛

発行所

横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒220-0023

横浜市西区平沼1丁目33番1号

東洋建物横浜ビル5階

TEL & FAX 045・316・5122

スタッフ

山岡秀明・武松昭男

杉山宜利・竹澤留美

ライター

島秀子・ササキミチコ

イラスト いとうみき

編集・制作 よしのたかこ

印刷 オリジナルプランニング

©リサイクルデザイン